



その4
経済産業部

産業クラスター創造 シンポジウム・イン沖縄 ～産学官連携を考える～



古谷 毅 経済産業部長

昨年の十一月十四日に沖縄コンベンションセンター会議棟で「産業クラスター創造シンポジウムイン沖縄・産学官連携を考える」を開催しました。本シンポジウムでは、我が国経済が当面の不況から脱し、中長期的に発展していくためには地域の産業経済の再生が喫緊の課題であるとして、OKINAWA型産業クラスター（地域再生・産業集積計画）を進めることに当たって、比較優位のある地域特性を活かした世界に通用する新事業創出を図るために戦略とは？どのように進めれば良いのか？について、企業、大学、沖縄県、経済団体等産学官の関係者が七名余が参加して活発な討議が行われました。

初めに古谷毅経済産業部長から「産業クラスターの意義」についての説明の後、照屋輝一前沖縄県工業技術センター長から「産業技術の振興と今後の展望」について

井深丹（社）首都圏産業活性化協会専務理事から「TAMAの地域産業振興の現状と将来」についての基調講演が行われました。また、その後、照屋輝一氏を「オーディネーターに、安仁屋洋子琉球大学地域共同研究センター長、稻福直樹琉球バイオリソース開発取締役研究開発室長、呉屋守章株金秀本社代表取締役副社長、南郷辰洋株国际システム代表取締役社長、花城順孝沖縄県商工労働部長、それに古谷毅経済産業部長を加え、六名のパネラーによるパネルディスカッションを行いました。以下、その概要を御報告します。

説明「産業クラスターの意義」
(古谷 毅氏)

経済のグローバル化等に伴い、市場においては一般的に先行者利得が大きくなつてあり、かつ、資金・情報・人材・技術等多様な経営資源が同時に必要となつていて、ビジネスの成否はスピードイーな

対応に左右され、中小企業、ベンチャー型企業が市場創出・拡大を図るために、経営資源の相互補完・分担、大学、公設試等の外部資源を有効に活用することが極めて重要な課題となつている。OKINAWA型産業クラスター計画は、亞熱帯性の地域特性等から他地域に比べて比較優位性の高い健康食品関連や情報関連、環境関連、加工貿易の四分野を対象に、経済産業部が結節点となる産学官ネットワークの形成と技術開発支援策等の総合的・効果的な活用を通して、地域経済を支え世界に通用する新事業が次々に生み出され、展開されていく環境を創出していくもの。

基調講演「産業技術の振興と今後の展望について」(照屋 輝一氏)

工業は、亞熱帯農業、建設業等他産業のバックボーンで、知識集約型の雇用効果の大きい産業であり、付加価値の向上が力技となつ

いう大市場に近接していることから沖縄での加工貿易型産業も有望となっている。広大な海域をもつ沖縄では、海や深層水、エネルギー、洋生物(マリンバイオ)や鉱物等の海洋資源が大きな可能性を秘めている。沖縄での本格的な産学官交流は、昭和五十六年の(財)地域産業技術振興協会の設立によりスタートし、沖縄の可能性を引き出すための地域技術開発に関する調査研究、技術開発プロジェクトの提案等を行ってきた。沖縄は、本土経済圏から遠隔地にあり、高い輸送コスト等の地理的条件の悪さや、産業集積・技術集積の低さから、現在でも工業はダメという声がよく聞かれる。しかし、工業の立地条件は時代とともに変わり、二十一世紀は、太陽、海洋、バイオマス(生物資源)等再生可能な資源・エネルギー産業が期待されている。また、中国や東南アジアと



井深 丹(社)首都圏産業活性化協会専務理事

沖縄型産業としての成長と沖縄経済の発展を確信している。

基調講演「TAMAの地域産業振興の現状と将来」(井深 丹氏)
TAMAとはTechnology Advanced Metropolitan Area(技術先進首都圏地域)のことだ、東京、神奈川、埼玉に広がる地域をTAMA地域と呼んでいる。この地域は第二次世界大戦中の軍需工業地帯で、戦後も大手企業の研究所が多く残り、研究開発型の中小企業群を形成した。現在、八十六の大学、四十の理工系のキャンパスがある。地域の総生産高は一兆五兆円と実に日本の四分の一を占め、バブル崩壊後も減っていない。

一九九八年に産学官の連携により地域振興を図ろうとTAMA産業活性化協議会を設立し、昨年、社団法人首都圏産業活性化協会となつた。大学の研究成績を特許化し、企業に技術移転を行うためTAMA-TLOという組織も作つた。TAMA-TLOでは五百余の会員をネットワーク化し、欲しい技術を聞き取り、連携を組む企業や大学を決めて製品になるまでを支援していく。産学官連携を成功させるためには、主体はあくまで企業であり、学は研究成果を企業に提供し、産業界は大学に社会izesを提供し、官は研究開発と製品化を支援することが必要。

パネルディスカッションの発言要旨

稻福氏：沖縄は宝の原石が多いが、うまく商品開発されていない。产学連携により零細企業での取組もスムーズに行くよいにな。

吳屋氏：沖縄はTAMA地域と構造が異なるため、産業クラスター計画は沖縄型を考へる」とが大事。また大学は、開かれた大学にすることが大事。

安仁屋氏：大学でも研究結果の活用が大事になっている。産学官の連携の必要性は認めるが、きちんとした組織がまだできていない。花城氏：県産業界は、明るい兆として情報通信関連産業の集積が

